

柔らかなココロ

「ぐろーばる社会」



「Hey!!」 「Let's judo!!」

何やら異国の言葉が飛び交う畳の上。子どもたちのテンションは上りに上がっている。いつも以上に飛び跳ねて動き回る子、先生の顔をじっと見て一生懸命発音する子。色んな子どもたちの反応に思わず保護者も指導者も笑みがこぼれた。

これは先日、KIDS☆JUDO 体操とくやま教室で“英語で JUDO!!!!” 教室を開催した時のワンシーン。講師は昨年 10 月に日本に帰ってきて、こちらで生活を始めた防府市在住のデイビス千春先生と旦那様のスティーブ先生。スティーブ先生はアメリカ育ちの黒人の先生。二人の先生のアメリカンな陽気さに最初こそは気後れしていた子どもたちだったが、だんだん打ち解けノリノリの教室となった。

実は、外国の方にあまり出会ったことのない子ども達がびっくりしないように、事前にあえて肌の色が違う子ども達が載っている写真を見せて、世界には色んな人がいること、みんな同じ人間であることを平たく伝えていた。その子どもたちの中に最近ようやく JUDO 体操教室に入れるようになったうちの息子（4 歳）もいた。自宅に戻った際、息子に「この肌の色の子どもたちとお友達になれそう？」と尋ねてみた。そしたら「何でお友達にならなきゃいけないの？僕は幼稚園にお友達たくさんいるよ！」と返答が。この一言は正直、母として指導者として大げさではなく地球上の人間として大いに考えさせられた。そして私の口からでた次の一言は「お友達や仲間は少ないより多い方がいい」取って付けたような言葉だったが 4 歳児に分かり易く説明するのはこれが精一杯だった。

そして迎えた“英語で JUDO!!!!” 教室当日。私の不安と裏腹に息子は何事もなかったようにスティーブ先生と戯れていた。その姿を見た私はハッとした。必要があるから仲良くするのであって、そもそも仲良くなることに理由なんているのかと。人間誰しもが、知らない人と無理やり仲良くしなくてもいいのではないか。お互いを知るからこそ仲良くなれる。知らないとなんか想像力に任せて遠ざかってしまうのが人の常だと私は思う。だからこそ知らない自分を知り、知る努力をすることが必要なのではないかと。

この世に出てきてたった 4 年しかたっていない人間の何気ない一言でまた一つ学ぶことが出来た。まだまだ人として未熟者だと大いに痛感しながら、これからも日々精進していく所存でございます。はい。

(近藤 優子)